

議会だより

発行／鹿児島県瀬戸内町議会 編集／議会報編集委員会 〒894-1592 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津 23 番地



ヤドリ浜

川畑有沙さん(27)

診療所で栄養士として勤務している。

実家が飲食店を経営しているの
で、子どものころから料理には親
しみを持っていた。

鹿児島島の短大で栄養士の資格を
得て、その地で栄養士としての経
験を積んできた。4年前ふるさと
の古仁屋にもどり、希望の仕事に
つくことができ、いまは患者さ
んの健康回復の一助をになっ
ていくというやりがいを感じながら、
毎日の仕事に励んでいる。

いま飛ぶ鳥を落とす勢いの力
士、明生は従弟になる。快活な人
で、写真を撮られながら、「うし
ろからもとってくださーい」と
いってうしろ向きになったりす
る。

活気あふれる瀬戸内町になって
ほしい。

こんなことを決めました!

第3回定例会

9月3日~13日

第3回(9月)定例会では、決算議案11件、補正予算議案8件、条例改正議案7件、契約議案3件、その他議案2件の計31件の議案を審議し、それぞれ可決しました。

また、平成30年度各会計決算議案については、決算審査特別委員会(委員長 池田啓一・副委員長 元井直志)を設置して審査を行い、最終日に委員長から審査報告がなされ、意見書(次頁に掲載)を町当局へ提出しました。(各会計決算額状況については町広報紙に掲載のため、割愛しました)主な議案の要旨は次のとおりです。

補正予算

一般会計補正予算
(第3号)

●歳出について

総務費の財政調整基金に2億2079万4千円、公共施設維持管理基金に1億754万7千円をそれぞれ積立金として追加したこと。教育費に古仁屋高校女子寮建設事業費として1億2562万円、給食センター建替事業費として8398万8千円それぞれ追加したこと。災害復旧費の道路橋梁河川災害復旧費に7600万円を追加した議案を原案可決しました。

●歳入について

国庫支出金の災害復旧費国庫負担金に

5640万円を追加したこと。繰入金のおふるさと応援基金繰入金に9403万3千円を追加したこと。繰越金に前年度繰越金として、4億4158万8千円を追加した議案を原案可決しました。

契約

●瀬戸内町(加計呂麻島)携帯電話等エリア整備事業委託の締結について

公募型プロポーザル方式(技術提案書競技方式)を採用し、本事業に係る事業者選定評価基準に基づき、外部有識者を含めた本町で組織する事業者選定委員会の評価を受け、最優秀技術提案事業者として西日本電信電話株式会社鹿児島支店と

9億3744万円で随意仮契約を8月27日付けで締結しており、情報通信基盤整備のための奄美大島本島側く加計呂麻島間の海底光ファイバケーブルの敷設及び移动通信システムの整備委託の契約議案について審議し、可決しました。

教育委員の任命について

●徳永允氏の教育委員の再任について全会一致で同意しました。

人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて

●伊藤悦郎氏を人権擁護委員として法務大臣宛推薦することに全会一致で同意しました。

平成30年度決算審査意見(11項目)を町へ提出

1. 積極的に各課の職員研修の推進を図られたい。
2. 各施設又は各業務において強固な財政及び住民サービス向上に資する為、必要な民間委託については積極的に進められたい。
3. シルバー人材センターの充実について、積極的な支援を図られたい。
また、加計呂麻島・請島・与路島へのシルバー人材センターを設置されたい。
4. 出産祝金の商品券支給については、町民に使い勝手よく、喜ばれ、効果ある支給方法（現金支給等）に改善すべく、調査、研究に努められたい。
5. イノシシによる農作物への被害が著しく、生産意欲の低下を招いている。このことからイノシシ捕獲の対策が急務であり、緊急捕獲活動支援事業の導入を図られたい。
6. 農畜産業の振興に向けて、遊休地解消と草地開発に鋭意努力されたい。
7. 水産業の振興（離島漁業再生支援交付金を活用した漁場の再生等）と大島海峡の利活用について鋭意努力されたい。
8. 観光施設整備（公衆トイレ・案内板等）については、早急に設置・改修等を図られたい。
9. 救急艇「おおとり」の船長・船長代理態勢については、甲・乙各2名の4名態勢にするなど万全な勤務形態を図られたい。
10. 古仁屋高校の振興対策については、新学科設立など中学生が魅力を感じる学校づくりに努めるとともに、受け入れ態勢の充実とPR活動を強力に推進されたい。
11. 町営定期船の欠航対策については、島民生活に支障をきたさぬよう早急な解決策の検討・実施に向け、全庁的組織で取り組まれたい。

一般質問

大型クルーズ船 寄港地誘致を断念

中村 義隆 議員



クルーズ船誘致に
ついて

中村 検討協議会では

賛否一本化できなかったが、町長の判断をうかがいたい。

町長 この度、本町におけるクルーズ船のあり方について、提言書の策定を目的に委嘱していた「クルーズ船寄港地に関する検討協議会」から、5回の協議を経て、令和元年8月10日付けで7項目にも及び貴重かつ重要な提言がなされたところ

である。

この提言書を真摯に受け止めたうえで、今後のクルーズ船観光については、提言を受けた内容を遵守し、新たな取り組みに当たっては基本姿勢とすることは当然のことであるが、現在進めている西古見池堂地区における大型クルーズ船寄港地の誘致については、町内の合意形成が不十分な状態にあり、また、提言内容を遵守するには、更に長期の時間を要するといわざるを得ない。

したがって、大型クルーズ船寄港地計画による地域振興策の実現や、住民感情も含めた受け入れのための条件を整備することは困難であるとの結論に達したところである。

以上のことから、最終的な総合的政治決断として、この度の本町「西古見池堂地区」における「大型クルーズ船寄港地計画」にかかる一連の議論について終止符を打ち、その誘致に関して、断念することを決断した次第である。

**河川の寄り洲に
NSN**

中村 仲金久川は伐採してあるが、仲里川の計画をうかがいたい。

町長 2級河川仲里川の古仁屋小学校裏門から上流に向けては、町管理の準用河川仲里川であるため、建設課で伐採等は対応済みである。

県の計画については、



伐採後の仲金久川

**ふるさと納税に
NSN**

去年寄り洲除去を実施しているが、限られた予算の中で、随時伐採等を行っていく計画と聞いている。

中村 ふるさと納税者のリピート率と、いただいた寄附金の活用状況をうかがいたい。

町長 ふるさと納税者のリピート率は、3%程度である。

寄附金の活用状況については、平成30年度の主な事業として、プレミアム商品券事業等の産業振興分野、出産祝い金事業等の保険・医療・福祉分

**柳谷 昌臣
議員**

野、古仁屋高校寮整備事業等の教育文化・観光交流分野・台風24号支援事業等の安心安全分野などの貴重な財源として幅広く活用している。



**観光商工業に
NSN**

ように進めているか。

町長 インバウンド対策については、英語版の観光リーフレットの作成、観光案内板を本島側2箇所と加計呂麻側2箇所に設置している。

受け入れ等については、奄美群島広域事務組合が取り組んでいる。

奄美群島特別通訳案内士が、本町は3名登録されている。

柳谷 インバウンド（外国人観光客）対策はどの
その他、通訳案内業務を専門とする企業へ依頼

するなどして対応したいと考えている。

スマートフォンを利用しては、総務省・観光庁の方で作成したヴォイストラ（無料通訳アプリケーション・世界31言語対応）や、その他の無料通訳アプリケーションの利用を呼び掛けたいと思っている。

以前よりインバウンド対策の為に講習会を検討していたが、実現にいたっていないため、今後「町・商工会・観光協会」で連携した対応を検討する必要があると感じている。

柳谷 キャッシュレス対策はどの様に進めているか。

町長 町としては、関係機関等への啓発活動（ポスターやチラシの配布）を行っている。

商工会においては、職員による「キャッシュレス決済」についての説明等、随時行っており、周知活動については次のとおりである。

- ・各種資料発送時に、キャッシュレス関係書類を送付
- ・キャッシュレス決済事業と連携し、キャッシュレス導入を支援
- ・キャッシュレス決済についての問い合わせ等への、適宜対応

今後、町・商工会ともにホームページ・フェイスブック・その他の媒体を活用し、情報提供な

どを通じて周知をはかりたいと思う。

柳谷 町内の海水浴場（清水・ヤドリ浜）の新たなトイレ・シャワールの設置は必要だと思うが、町長の考えはどうか。

町長 清水地区については、私の出身地とか関係なく、浜には家族連れや観光客も含め多くの方々が海水浴にきている。

議員がいわれるとおり、確かにトイレ・シャワーについては、相当前に建設されたもので、使用される方にとっては、たいへん使い勝手の悪い、印象の悪い施設だと思っている。

今後については、県の事業等を含め、清水海水



海水浴を楽しむ家族（清水海岸）

浴場、ヤドリ浜、その他の地区についても、計画を立てて必要性がある所には、トイレ・シャワールの設置を考えていかなければならないと思っていますし、また、今般作成した長期振興計画の中においても観光施設等の充実というところで、トイレ・シャワー施設の改修等を行うという計画を立てているので、その計画にそって、今後も進めていきたい

いつ考えたい。

教育行政について

柳谷 町内各小中学校教育懇談会での参加者の反応と、それぞれの課題に向けた今後の方針についてうかがいたい。

教育長 6月11日から8月1日まで、町内11校區で教育懇談会を開催し、延べ212名の関係者が出席した。

学校の維持管理等に関することや住居、就労、未就学児への支援などの学校存続に関すること、定住促進・子育て支援に関する意見が多く寄せられた。

課題や要望に対する今

後の対策方針等については、町長部局と協議の上、

検討したい。

渡島 芳臣 議員



クルーズ船誘致計画について

渡島 クルーズ船誘致計画を断念するに至った大きな理由は何であったのか、誘致計画に関する検

討協議会が学識経験者を含め19名のメンバーで5回行われたが、支出した費用はどれほどかうかがいたい。

町長 誘致計画による地域振興策の実現や、住民感情も含めた受け入れの条件を整備することは困難であるとの結論に達し断念する事を決断した。協議会の運営に要した費用は198万93円である。

渡島 大型クルーズ船誘致計画は断念したが、今

後この計画に変わる大島海峡を活用した振興策が必要であるが、どのような構想を持っているのかうかがいたい。

町長 第5次瀬戸内町長期振興計画の産業分野において、ブルーツーリズムの推進等の観光漁業による振興の構想を持っている。

不安と混乱にさせた責任を、どの様に説明するのかがうかがいたい。

町長 記者会見において町内外に説明したところであり、内容はテレビ、新聞、ユーチューブ等を通じて伝わったものと感じていますが、今後においても町の広報紙にて説明して行く考えでいる。

町営船フェリーについて

渡島 前回の船舶ドックにおいて、安全運航のため大規模な船舶の改造を行う予定であったが、改造はされたのか、改造箇所、運航にどのような影響をもたらすのかがうかがいたい。

町長 現在、県と協議中であり、6月の定期検査

篠川港に係留中の旧船フェリー



ドックでは改良

はまだ行っていない。

ない。国の承認

が得られるよう

に協議を続けて

いく。

渡島 旧船フェ

リーは売却する

時期を失い、売

却することもで

きず、篠川集落

の岸壁に係留さ

れたまま長い期

間経つが、どの

ような処理をす

るのかうかがい

たい。

町長 建造20年

以上を超える船

の取引規制が厳

しく、廃船解体

処分する予定である。

渡島 フェリーかけろま

欠航時における対策につ

いて協議会を立ち上げ進

めるとのことであったが、

その後の進捗状況をつか

がいたい。

町長 協議会を開催し、

3回会議を持っている。委

員の方で、貸切船の関係

者に聞き取りや打診等を

行っているが、具体的に

答えられる段階にはない。

委員のみなさんとともに

全力で取り組んでいく。

学校存続について

渡島 油井校区、篠川校

区では子どもが少なくな

り、学校存続が厳しい状況

であるが、学校存続に向け

て子どもを持つ家族が優先

して入れる住宅建設はでき

ないものかうかがいたい。

町長 公営住宅は、住宅

に困窮する低額所得者対

象に整備される公共のた

めの住宅であるので、建

て替えについては、今後

の需要や人口世帯の動態

を勘案しつつ、整備計画

を検討していく。

澤 佳男 議員



デマンド運行と 不定期運行の目的は

澤 平成30年度から加

計呂麻バスが実施してい

る、デマンド運行、不定

期運行というのは、何の

目的、理由があつてのこ

とが。

町長 平成30年度から、

加計呂麻バスがデマンド

運行、不定期運行を導入

した背景には、平成19年

度の決算不認定後、「補

ここに加計呂麻バスの29年度と30年度の給与と燃料費の資料がある。

バス会社の会計年度は、10月1日から翌年の9月30日までとなっているが、ここに10月から翌年9月までの毎月の給与総額が出ている。

29年度は、毎月まったく同じ金額が1年間並んでいる。しかし30年度の資料を見ると、後半の4月から給与の総額が上がっている。

このころから加計呂麻バスは、不定期運行やデマンド運行をはじめている。本来なら、それらの開始によって経費は削減されるはずであるが、逆に給与は上がっている。これは、どうしてだろうか。

に解釈すればいいのか。

課長 給与が上がった理由について、詳細はわからないが、バス会社の中でどのような話し合いがなされたのか、きいてみたい。

澤 本来、不定期運行をはじめた理由は、さっきの答弁にあったように、経費の削減である。当然それを目的にしているわけだから、給与の削減にもつながらなければならない。それがそのときから逆に上がっている。

燃料費も、29年度に比べて30年度は増加している。便数をへらせば当然燃料費の削減につながっていくはずであるが、あ

まりその効果がみえてこない。

日頃バスを利用している加計呂麻島の人々や、観光客にとっては、バスの運行便数が減少して、移動が不便になるばかりであって、何のための不定期運行なのか、デマンド運行なのか、わけがわからない。このことはどうとらえているのか。

課長 燃料費については、29年度の走行距離が20万3千キロ、30年度が19万5千キロで、走行距離はへっている。

ただ燃料費の平均単価が、29年度133円、30年度は145円と上がっていて、その影響で30年度の燃料費が増加し

たものと考えている。

**不規則な運行
を見直すべき**

澤 走行距離は、短縮されたと思う。したがって燃料費も下がっているだろう。

しかしわたしには、加計呂麻島の人たちに、バスが来るのか来ないのかわからない、という不安

や不便を負わせるほどの、価値ある燃料費の削減だとしても思えない。さっきいったように給与だって上がっているのだから。

不定期運行だ、デマンド運行だなんていうことはやめるべきである。

わたしは、バス会社にきだと思つて。

榊 藤光 議員



古仁屋高校の 振興対策について

榊 定員割れの古仁屋高校の振興対策については、本町の児童生徒数の

現状からして、町外からの留学生の獲得はいうまでもないこと。

そのために多彩な施策を実施しているがまた一歩、新たな視点から振興

対策について提案したい。当局の考えをうかがいたい。

多くの大学への推薦入学の枠はできないか。

教育長 現在古仁屋高校では、大学入試について指定校推薦制度を活用している。

すでに、今年度の指定校数は、大学30校、短大14校ときいている。

毎年、進路相談等をおして、指定校の推薦基準を満たしている生徒には制度の内容を知らせて

いるというところである。

神 古仁屋高校卒業生の役場職員の採用枠はできないか。

町長 職員採用については、平等な取扱いや成績主義等が要請されている。

瀬戸内町においても「瀬戸内町職員の任用に関する規則」等に基づき、職務遂行の能力を判定するための競争試験を実施し、応募者の適正と能力を判断した上で採用している。

また、私が町長に就任した平成27年度実施の採用試験以降は、より公正な採用とするため、試験結果の開示を行っている。

以上のことから、古仁

屋高校卒業生に対してのみの採用枠創設は、行政職員の採用としては、不適切だと考えている。

しかしながら、古仁屋高校卒業生にも採用試験を受験していただくために、今年3月に実施された古仁屋高校就職ガイダンスには、人事担当者を1名派遣し、募集説明を行っている。

今後は、古仁屋高校への進学率を高め、学力の向上をはかり、瀬戸内町役場もふくめ、地元瀬戸内町で活躍できる仕組みづくりが必要だと考えている。

神 古仁屋高校を卒業し奨学資金を受けて進学す

る学生への一定期間奨学資金の利子補給をするこ

とを目的とした、ふるさと納税で基金は創設できないか。

町長 奨学資金の利子補給を目的とした、ふるさと納税での基金の創設については、返済方法の運用の問題等、課題があると推察しており、現時点においては考えていない。

神 大都市からの留学生にとって、あこがれの海とのつながりがあることは大きな魅力と思う。高校にセーリングヨット同好会を設立し小型船舶操縦士の取得や、セーリングを行政が支援することはできないか、うか

がいたい。

町長 セーリングヨット同好会の設立、小型船舶操縦士の取得、セーリングの行政による支援につ

いては、まずは古仁屋高校の教育方針に沿い、さらには古仁屋高校が対応できるものなのかが重要であると考えている。

神 「子や孫に故郷を繋ぐ」として、子や孫が古仁屋高校へ留学することにより、生活を共にする目的で帰郷する場合は、家屋のメンテナンス等の助成をすることはできないか。

町長 古仁屋高校への留学生には、現状の制度に

養殖筏が浮かぶ大島海峡



においても経済的負担軽減のため、留学にかかる費用の一部を支援しており、これ以上の支援は地元出身の高校生との格差が生じることから好ましくないと考えています。

観光型水産業に

CS2

神 大島海峡の西方方面は壮大な養殖筏が浮かぶ海洋の風景がある。

この地域を海洋教育を含めた「海に親しむ」観光ゾーンとして陸上での養殖施設を含めた第3セクターで取り組むことはできないか。

町長 西方地区については、以前に奄水協が主体

となり、水産物PR及び観光資源としての体験型漁業ツアーとして瀬戸内漁協と養殖業者3社に委託し取り組んだ経緯があると聞いています。

元井 直志 議員

現在は、取り組んでないようである。

今後、関係機関や役員内の関係各課で情報収集に努めたいと思う。

空き家対策に

CS2

元井 まだ使用可能な空き家の対策と使用可能な空き家の対策について、町の方針を問う

町長 空き家対策については、個人の所有財産であることから基本的には所有者が維持、管理、処分等を行うべきとの方針



老朽化している宮前団地

である。

しかしながら現実問題として放置された空き家が危険家屋となり、景観や防犯等の問題を引き起

こしている事例も近年増加していることから、町としては使用可能な空き家の活用を推進する政策や使用不可能な空き家

の処分をつながす政策に取り組んでいるところである。

新たな町営住宅の建設について

元井 老朽化している町営住宅は取り壊さねばならぬが、新しく建て替える条件に合わない箇所の再利用について

町長 宮前団地簡2及び高丘団地簡2の条件に合わない箇所については、土砂災害警戒区域（イエローゾーン）に指定されているため、公営住宅の建設ができないことから、跡地の再利用については、他の課と連携をはかり、検討して行きたい

と考えている。

元井 市街地外からの町営住宅の要望があるかどうか

町長 要望については、直接、町へ要望書の提出はないが、平成31年4月に行われた、議会による議会報告会の「議会報告会実施における要望書」の中には、油井校区・篠川校区・阿木名校区・節子集落から要望事項として出ている。

嘉徳地区の整備について

元井 海岸の整備について、どのように進めようか。

町長 嘉徳海岸侵食対策事業については、検討委員会が3回開催された。

検討委員会において、侵食の著しい背後に、墓地や人家のある区間180mについてはコンクリート護岸を建設し、護岸の前面を砂でおおい、アダンを植栽するなど景観や環境に配慮した工法により整備する方針が示され、鹿児島県により平成30年度は護岸工1130mを発注済みで、その後施工範囲の近くにウミガメの産卵が確認されたため、6月12日から工事を一時中止し、今後については、ふ化の状況を確認し専門家の助言をいただき、再開時期を決定したいと考えていると聞いている。

町としては、集落住民

の生命・財産を守るため

検討委員会の方針に基づいた整備計画を促進して

らう。

町内の林道整備に ついで

元井 町内の林道は、ク

元井 嘉徳の滝へのトレイルコース整備について

ロウサギやその他の動物が生息しており、コース整備が必要と考えるが、今後の対応はどうか。

町長 トレイルの基本的な考え方は、

町長 林道整備について

- ①安心・安全に歩けるか
- ②携帯電話が通じるか
- ③休憩ポイントの有無(トイレ・自動販売機)
- ④アクセスの良さ(バス停・駐車場などの起終点などを考慮して選定されている。

は、未舗装路線の舗装事業及び維持管理として既存林道の伐採等を実施して行くこととしている。また、近年は生活路線・災害時の迂回路・観光道路として利用されている状況である。

このような点を総合的に判断して、今回、嘉徳周辺はトレイルコースとして選定されなかったものと判断している。

トレイルコース整備については、林道事業による整備は出来ないため、既存林道の一部をトレイルコースとして取り込む

場合には、林道使用願による手続きが必要となる。

今後は、他の市町村の取り組み等を調査したいと考えている。

治を行う者として、常に公明正大に謙虚な心を持って、人を愛し、町を愛し、国を愛する心を持つことが私の政治理念である。

向野 忍 議員

政治姿勢については、

町長 4年前の町長選挙の際に「敬天愛人」を旗印として掲げ選挙戦を戦った。

「日々町民と語り、町民の声に耳を傾け、町民の心に寄り添う」という政治姿勢を今後も大事にしていきたいと考えている。

町長の政治姿勢に ついで



向野 無投票当選し、2

2期目に挑戦した選挙

上に「より強固なチーム

期目の町政をどのような政治理念・姿勢で運営していくのかうかがいたい。

期目の町政をどのような政治理念・姿勢で運営していくのかうかがいたい。

せとうち」を作り上げ町政運営にあたること、町民から2期目の負託を受けた私の責務であると

き方の原点でもあり、政

考えている。

向野 「トップが変われば職員が変わる。職員が変われば役場が変わり、役場が変われば住民が変わる。住民が変われば地域が変わる」

現在の町及び役場の状況はどうかというかがいたい。

町長 昨年8月に実施した住民アンケートで「今後とも瀬戸内町に住み続けたいと思う」と回答した住民が全体の58・9%という結果が現在の状況を表していると考えている。
この住民満足度とも言える数値を10年後には80%以上という目標を掲げている。

この目標を達成するためには、まず私自身が変わり、役場職員が変わることが至上命令だと考え「瀬戸内創生マニフェスト」においても「職員の意識改革」をかかげた。

フェリーかけるまでの欠航対策について

向野 フェリー欠航対策問題は、商工観光課だけでなく「チーム瀬戸内町役場」として、各課横断的・全庁的なプロジェクトチームとして取り組むべきである。

現状の課題・問題点を正確に分析し、具体的な対策の検討・実施に向けてスピード感をもって解決策をはかるべきかと思うが。

町長 船舶交通係との密な話し合いを含め、この問題を早期に解決できるように全庁態勢で努力していきたい。

子ども・子育て支援について

向野 10月1日から実施される幼児教育・保育の無償化に対し行政、対象施設及び保護者はどのように対応するのか。

教育長 10月から3月までの保育料は現行通り保護者より徴収し、学年末もしくは年度末に在籍状況を確認し、還付を予定している。(附属幼稚園、信愛幼稚園)



園庭で元気に遊び回る子どもたち(古仁屋小学校附属幼稚園)

町民生活課長 高丘保育 園は住民税非課税世帯は 無償化を受けた方
所は償還払いせず最初から
らいたただかない。へき地 一時預かり(ママ・サポ) は保育所に入る資格のあ
保育所は、もともと保育 料は受け取っていない。 無償化を受けた方
料は受け取っていない。 無償化を受けた方
かな保育園、潤生会保育

は、町に申請していただ
きたい。



声

安山 卓範 (80)



中学3年生
の時に心臓を
病んだことで
苦しんだ時期
があった。

早く都会に行って病気を治した
い一心で、尼崎市に行つて散髪の
修業に打ち込むようになった。

島唄を聞くのが好きで、新築
祝いがあったりすると、そうい
う場所にもぐりこんでは、必ず
うたわれる島唄に聞きほれるよ

うな子どもであった。

だれに教わるというのでもなく
見よう見まねで、島唄をおぼえて
いった。

32歳の時にふるさとに帰り、古
仁屋で理容業を営むようになった
が、自宅のある篠川から通う往復
の道を、大声で島唄をうたいなが
らバイクで疾走した。道ばたでパ
イナップルを売っていた阿鉄のお
ばさんたちが、びっくりして商品
をほったらかして逃げ出したりし
たこともあった。

議員は、是々非々で行動しても
らいたい。そして町民との対話を、
もっと深めてもらいたい。

編集後記

暑い熱いと思いながら過ごしていたのに、いくつ
かの台風が接近しては奄美大島をかすめるようにし
て遠のいていったことにほっとしているうちに、夏
がどこかにいってしまつた。

奄美大島は直撃をまぬがれたものの、日本本土で
は連続して3度も風と雨の襲来を受けて、大災害が
起きている。

他人事とは思えない気の毒な惨状を見るにつけ、
いつかは自分たちの島にもやってくることを、覚悟
しておかなければならないと、自分に言い聞かせる
日々である。

秋も深まり、おだやかな日が続いている。



水産振興に関する調査を行う委員(かごしま豊かな海づくり協会)

議会報編集委員会

委員長	澤 佳男
副委員長	元井 直志
委員	岡田 弘通
委員	向野 忍
委員	池田 啓一
委員	柳谷 昌臣
委員	昇 克己